

(2003年9月18日日本動物学会主催「Zoological Science 刊行20周年記念シンポジウム」)

学術雑誌の電子ジャーナル化とその今後:SPARC/JAPANを通して

土屋俊(千葉大学)

1980年代から1990年代において、北米を中心に学術雑誌の価格高騰傾向が続き、「学術雑誌の危機」("Serials Crisis")と呼ばれる事態が生じた。ほぼ同様の理由から、日本では1990年代になって購読タイトル数が1990年代に半減することになった。そのなかで到来した学術雑誌の「電子ジャーナル」化は、この危機を克服する要素を含むとともに、日本からの学術情報発信という観点からはすでに、商業出版社に対しても、欧米の図書館を中心とする動きからも遅れをとっているといわざるを得ない。このような状況を打開する試みが、「国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/Japan)」である。しかし、電子ジャーナル化された学術雑誌がこれからどのように展開し得るかについては、予断を許さないところがあり、学術雑誌刊行の主体でもあり、かつその受益者でもある研究者の姿勢が重要であることを明らかにする。